

(別添3)

【福島県会津坂下町】

校務DX計画

1. 校務DXの現状と課題

会津坂下町では、令和2年度より国のGIGAスクール構想に基づく1人1台端末と各教室への無線ネットワーク整備、デジタル教科書やAIドリル教材の導入やGoogleを活用した教育DXにより、教育のICT化を推進してきた。

また、令和6年4月には保護者連絡アプリを導入し、これまで電子メールや電話、紙媒体で行っていた学校とのやり取りができるようになり、保護者の負担軽減にも努めるなど、クラウドツールの活用が徐々に進んでいる状況である。

しかしながら、学校では依然として業務にFAXを使用している状況や保護者や外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類を用いた業務が主流となっており、教員の働き方改革の観点からも非効率な状況が課題となっている。

2. 校務DX推進とクラウドツールの活用

(1) 今後の方向性

教職員と保護者間の連絡において、保護者向け連絡アプリ等の活用が図られているが、更なる活用方法の検討を進めていく必要がある。また、教職員と児童生徒間の連絡や学校内の連絡は、紙媒体を利用する頻度が高いことから、更なるデジタル活用を図る必要がある。

(2) 課題の解決に向けた取組み

教職員と保護者間の連絡方法として、紙媒体からデジタルへの切り替えできる書類の洗い出し及び変更に伴う保護者の理解を得ながら、保護者向け連絡アプリ活用の更なる取り組みを目指す。

教職員と生徒間の教材・連絡の共有、学校内の連絡については、Googleやロイロノートのクラウドサービスの活用を進め、児童生徒の情報スキル向上と業務フローの再構築やFAXでのやり取り・押印の見直しに取り組む。

3. 校務システムの更改と次世代校務システムの移行

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在の校務系と学習系に分離した学校内ネットワークについて、文部科学省が推奨している「ゼロトラストセキュリティ」の考え方に基づいてネットワーク設計を見直し、クラウドサービス等による利便性の向上とアクセス制御等による十分なセキュリティ対策がなされた校務系・学習系ネットワークの統合を図り、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を実現する。

(2) 校務支援システムのクラウド化

教職員の事務負担軽減やコミュニケーションの向上ができる環境を構築するため、オンプレミス環境にある現在の校務支援システムから、フルクラウド型校務支援システム導入に向けて、先進自治体の調査やソリューションの研究を行い、令和8年度中に導入計画を策定する。

(3) 教育ダッシュボードの創出

次世代型校務システムへの移行に合わせて、データを統合・可視化する教育ダッシュボードを構築して授業や事務の改善に活用する。